

韓国環境部プレスリリース 2019年11月2日付

以下、機械翻訳などによる仮訳

江原道鉄原郡（CCZ）のイノシシへい死体からアフリカ豚コレラ検出 （野生いのしし 20 例目）

<http://me.go.kr/home/web/board/read.do?boardMasterId=1&boardId=1080115&menuId=286>

【本文】

環境部所属の国立環境科学院(院長チャン・ユンソク)は江原道鉄原郡遠南面榛峴里 39 番地で発見されたイノシシへい死体からアフリカ豚コレラウイルスが検出されたと 11 月 2 日明らかにした。

11 月 1 日午前 7 時頃、軍部隊がフェンス調査中にイノシシへい死体を発見して鉄原郡で申告した。鉄原地域民統線内の捕獲枠を点検していた国立環境科学院現場対応班が直ちに出勤して試料を採取し、鉄原郡は野生イノシシアフリカ豚コレラ標準行動指針により死体を埋却処理した。

国立環境科学院は、2 日午後 3 時頃、アフリカ豚コレラウイルスを最終確認して結果を関係機関に通報した。これで鉄原遠南面のイノシシへい死体から 7 件のアフリカ豚コレラが検出されており、全国的には 20 件に増えた。

※ 試料採取及びへい死体埋却後の作業者の消毒、周辺防疫作業の実施

チョン・ウォンファ国立環境科学院・生物安全研究チーム長は「今度の検出地点は従来の 1 次電気フェンスから約 250m 外にあるが、設置中の 2 次フェンスの中に含まれた地点だ」として、「迅速に電気のフェンスを拡張して設置する予定であり、軍部隊と協力して、この地域でへい死体搜索をさらに強化する」と述べた。

(以上)